

大学入試における評定平均値（内申点）の重要性

大学入学手段の6割以上が推薦・総合型選抜になっています。この流れは加速しており、数年後には7割以上になるとみられています（私立大学の中堅大学レベルまでの大学はすでにこの割合になっています）。これらの選抜方法では**高校における「評定平均（内申点）」が重要**になってきます。評定平均は高1の3学期（後期）、高2の3学期（後期）、高3の1学期（前期）の成績すべてを使うため、入学時から気を抜くことができません。上位校の基準は4.3以上、一般的な推薦入試のための基準も多くは**3.8以上**が求められます。どのような成績が求められるのか、実際の例を見てみましょう（以下例は現行課程の教科）。

高1	英語表現	コミュ英語	数学Ⅰ	数学A	国語総合	物理基礎	化学基礎	地理B	現代社会	体育	保健	芸術	家庭基礎	合計	評定平均
	4	4	3	3	4	3	3	4	4	3	4	4	3	46	3.5
高2	英語表現	コミュ英語	数学Ⅱ	数学B	現代文	古文	地学基礎	生物	世界史B	世界史B	体育	保健		合計	評定平均
	4	4	3	3	4	4	3	3	4	4	3	3		42	3.5
高3	英語演習	コミュ英語	英語精読	現代文	古文	国語演習	日本史B	日本史研	体育	情報				合計	評定平均
	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3				38	3.8
最終値															3.6

最終値計算方法は $(46+42+38) \div (13+12+10) = 3.6$

上記例では「文系科目は4、理系科目は3」という典型的な文系の生徒の取る成績です（技能科目は4と3で平均的）。この場合、1年次・2年次ともに評定平均は3.5となり、一般的な推薦入試の基準値である3.8に届きません。高3では理系科目がなくなり、3.8になりましたが、3年間の平均で見ると3.6となり（全成績値の合計を科目数で割ります）、推薦入試には不十分となります（基準の低い大学には出願できます）。

高1・2の成績が上記だとした場合、よく見られる**「高3から生まれ変わったように頑張る」**というやり方だと、仮に高3の1学期に体育・情報以外の科目をすべて5にしてやっと評定平均3.8を取ることができ、一般的な推薦入試にチャレンジできます（他の生徒も本腰を入れるため、これは非現実的といえますが）。

上記のような成績になってしまった**最大の問題は数学・理科（理系科目）で成績が取れなかったこと**にあります。もし1・2年次の数学・理科科目で4が取れていれば、高3の成績は上記のままで評定平均3.8が取れます。

このことから言えるのは、**大学進学で重要なことは「いかに3を取らないか」**といえます。**高校は「自分と同じくらいの学力の生徒の集まり」**です。その中で4を取ると考えると、**中学時代に苦手であった科目はかなりしっかりと学習をしないと難しい**といえます。